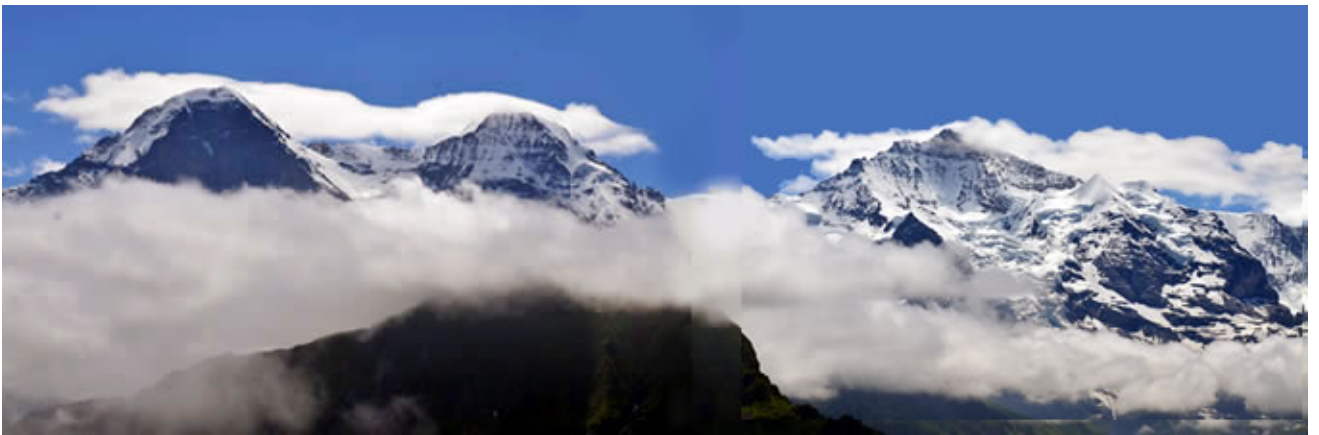


～雄大なユングフラウ三山と、珠玉の東部 街めぐり～

『アイガー・メンヒ・ユングフラウ山塊、
アルプスの少女ハイジの村マイエンフェルト
首都ベルンの旧市街、
スイスのいいところ、みんな見に行きましょう！』



(ユングフラウ三山 左よりアイガー、メンヒ、ユングフラウ)

どこを見ても美しく小粋でおしゃれで、何より安全が確保されている海外の地という
今では候補地選びに苦勞します。でもそれに限りなく近いところ、「スイス」はいかがで
しょうか？

「アルプスの乙女」と称されるアイガー・メンヒ・ユングフラウを見に、ヨーロッパで一番高
い鉄道駅ユングフラウヨッホ駅に降り立ち、エレベーターで3,571mのスフィンクス展望
台に上がります。「アルプスの少女ハイジ」の背景となったスイスの原風景を見に、「デル
フリ村」のモデルとなった、マイエンフェルトのオーバーローフェルス村ハイジの家を訪
ねます。アルプス登山の玄関インターラーケンや首都ベルン、最大の都市チューリッヒ
等、スイスの魅力満載の旅です。お食事も4種類のスイス料理を選んでいきます。

【 成田空港国際線第一ターミナル 】 10時25分発



(スイス航空 エアバス A340-300)

出発日は 10月11日(水)と 10月18日(水)の2班構成です。行き先がスイスなので季節は9月と10月が秋、11月から3月は冬のため秋に間に合うよう例年より1ヶ月早いスケジュールを組んでいます。スイス直行便はナショナルフラッグのスイス航空しかありません。そのためスイス航空161便を利用します。スイス航空の英語名は「スイス インターナショナル エア ラインズ」、2レターコードは「LX」です。成田発10時25分。飛行時間約12時間25分。スイスとの時差はサマータイム期間中なので7時間、日本時間から7時間を引いた時間が現地時間です。チューリッヒ到着は15時50分となります。

使用機材はエアバス A340-300 の予定です。燃料効率の点から今では双発が主流ですが、この機体は機体強度設計に無理の無い4発エンジンの大型ロング・ボディ・ジェットで長航続距離タイプです。

機内食が2食提供されます。

【 チューリッヒ 】 15時50分着

バスでチューリッヒ市内に向かいます。チューリッヒはスイス最大の都市で金融業・商工業の中心地であるばかりでは無く、文化・芸術の中心地です。紀元前のローマ帝国の時代に、この地には税関が置かれていました。税関という意味の「トゥールクム」がチューリッヒの語源です。

スイスは九州より少し小さく、人口は825万人ほどですから国全体で東京の2／3ぐらい。最大の都市とは言え、チューリッヒはこじんまりとした中世の香り高い歴史の街と言えます。

(1) 市内観光 聖母聖堂・旧市街地



美しい緑の尖塔を持つ「フラウミュンスター聖母聖堂」、下の道路は橋で「ミュンスター橋」、橋の下を流れる川は都市を流れる川とは思えないほど水の綺麗な「リマト川」です。聖堂はルートヴィヒ王の娘ヒルデガルトによって853年に建てられた修道院が起源ですが、この建物は12世紀から15世紀にかけて建てられたゴシック様式の荘厳な美しさを持っています。シャガールのステンドグラスがあるのと大型パイプオルガンが有名です。

この写真からは想像できませんが、この奥にはエルメス、ヴィトン、グッチ、ティファニー、ディオール、プラダ、バーバリー等のブランド・ショップが並んでいます。

★見どころ



シャガールのステンドグラス。う〜ん、当たり前なんですが、シャガールのモチーフ満載の見事なステンドグラス。1970 年、昭和 45 年の作品です。

キリスト教会は基本的に空からみると十字架の格好をしています。その頭の部分に当たる正面に3つ、左右の壁面に一つずつの窓があり、それぞれに聖書の物語が表現されています。観賞用にいすが並んでいますので、ここは心静かにおかけになってご覧下さい。パイプオルガンも演奏されています。

(2) 夕食 旧市街のレストランにて夕食 スイス料理 ラクレット



(イメージです。テーブルでチーズを掛ける調理法ではありません。)

最初のスイス料理は「ラクレット」です。2 日目の訪問地マイエンフェルトに関連する「アルプスの少女ハイジ」でもアニメの中で食べてられています。ラクレット・チーズという丸く大きなチーズを半円に切り、暖炉であぶって溶けたところを野菜、ソーセージ、パンなどにかけて食べるものです。

(3) ホテル チェックイン「クラウンプラザ チューリッヒ」



(クラウンプラザ チューリッヒ 全景)

「クラウンプラザ」ホテルは今年の国内旅行で金沢宿泊に使った「ANA クラウンプラザ 金沢」と同じ英インターコンチネンタル系列ホテルです。



客室内の様子ですが、この写真はダブル・ルームの参考画像です。お客様にはツイン・ルームをご提供致します。このホテルには2連泊します。

2日目

シャフハウゼン→ザンクトガレン→マイエンフェルト

【 シャフハウゼン 】

クラウンプラザホテルをバスで出発して、ボーデン湖方面に向かいます。シャフハウゼンのラインの滝を見るためです。時間は約45分です。

(1) ラインの滝 観瀑



ライン川は、1,233Km もの長さがありスイス、リヒテンシュタイン、オーストリア、ドイツ、フランス、オランダと 6 カ国を流れる国際河川です。川幅が広くゆったり流れる川面をイメージしがちですが、ここだけは別です。川幅が 150m あるので高さの 23m はさほどに感じません。ところが水の量が凄いため大迫力です。ヨーロッパの流量、ヨーロッパの迫力が楽しめます。またこの滝は西村京太郎原作、役所広司主演の映画「アナザー・ウェー-D 機関情報-」(1988 年・昭和 63 年 東宝東和創立 60 周年記念作品 日本・スイス合作)のロケ地の一つになりました。

【 ザンクトガレン 】

(1) 《世界遺産》ザンクトガレン修道院



この特徴的な二本の塔が時代を感じさせます。ザンクトガレンの大聖堂です。建物は大きくは三つに分かれ、北側から旧修道院、大聖堂、修道院図書館の順に並んでいます。

この町は島ケルト族のアイランド修行僧コロムバンがヨーロッパ山岳ケルト族に布教しながらカトリックの聖地ローマを目指した旅でスイスに達したのですが、12人いた仲間が自分とガルスだけになってしまうほどの苦しい旅となり、遂にコロムバンはコンスタンツにガルスは当時は何も無かったこの丘の上の地に僧院を建てたのが起源となっています。それで町の名も彼の名前ザンクトガルス（聖ガルス）から採られました。僧院設立は612年の事です。今では東部スイスの繊維工業の中心地として発展しています。建物は後期バロック様式です。修道院図書館は、10万冊以上の蔵書を持っています。

★見どころ 修道院図書館



修道院図書館はスイス最古の図書館で、単独で世界遺産です。図書館の建築様式はロココ様式。中世には本というものは貴重でした。キリスト教会が、本を収納するだけでこれだけの建物を作ったのですから、その価値が偲ばれます。中世の各種写本が2,000冊以上、グーテンベルグ時代の印刷本1,650冊、本棚は金網に覆われていて手にとっては見られませんが、ショーケース展示を見ることが出来ます。図書館に入るときは手荷物をロッカーに預け、靴にオーバースリッパを履いて入るという徹底ぶりです。天井の絵画もお忘れ無くご覧下さい。

(2)昼食 市内レストランにて昼食 スイス料理「フィレ ドゥ ペルシェ」



(イメージです。)

スイス料理の第2弾、「フィレ ドゥ ペルシェ」です。スイスには海はありませんが、その代わり美しい湖が沢山あります。その湖で採れる淡水魚のフライをタルタルソースで頂きます。淡泊で日本人には食べやすいです。



このデザートは調整用で、2種類が盛られています。ベリーのフルーツサラダとバニラアイスクリーム。もう一つはチョコレートアイスクリームと生クリームです。華やかな彩りのベリーのフルーツサラダの方を選びました。

【 マイエンフェルト 】

(1) 「アルプスの少女ハイジ」の故郷 ハイジの家・ハイジの泉



(ハイジ・アルプヒュッテよりマイエンフェルトを望む)

スイスと言われて日本人の誰もが思い浮かべる風景とは、このような景色ではないかと思います。ここはマイエンフェルトのオーバーローフェルス村、「アルプスの少女ハイジ」に登場する「デルフリ村」です。原作者のヨハンナ・シュピリが住んでいました。そしてこの景色、「アルプスの少女ハイジ」に出てくるといいませんか？今もCMで一部が見られるズイヨー映像製作アニメ版「アルプスの少女ハイジ」の制作者の一人が若き日のスタジオ・ジブリの宮崎駿監督だったのです。徹底したロケがオーバーローフェルス村付近で行われ、建物が現代的になっているという理由から、昔の面影を残す隣村イエニンスとそのまた隣村マランスでもロケが行われました。それが背景のセル画に生かされています。そして主題歌「教えて」の冒頭部分のアルペン・ホルンとヨーデルは本物です。数秒の冒頭部分を録音するために制作者たちは自費で録音技師を連れて行かなければなりませんでした。会社からお金が出なかったのです。それが150万枚の大ヒットに繋がりました。このアニメは勿論スイスでも放映されました。「これは本当に日本人が作ったのか？スイス人やドイツ人では無く。なぜ日本人はこれほどの物が作れるのだろうか？」これが大方のヨーロッパの人々の評価であり、驚きの中で広く受け入れられる事になりました。

ですからマイエンフェルトは本当にアニメ版「アルプスの少女ハイジ」の世界そのものです。



バスの駐車スペースの関係から、「ハイジの泉」からスタートしてマイエンフェルト・ハイキング・赤コースの一部を歩きます。「ハイジの泉」は泉では無く1953（昭和28）年に子供達の募金によって作られた水飲み場です。周辺は公園・駐車場・トイレ等になっています。64年前ですから顔は宮崎駿のハイジではありませんが、泉をのぞき込む姿はやんちゃでハイジらしいと思いました。

ここでスイス人のおじいさんに話しかけられました。この像の除幕式に参加したとのこと、オーバーローフェルス村ではみんなが集まる一大イベントだったそうです。



「ハイジハウス」はハイジ冬の家の想定。ハイジの時代の生活が展示された博物館になっています。この博物館の裏にハイジの夏の家「アルムおんじ」の山小屋「ハイジ・アルプヒュッテ」があります。



ハイジハウスの一室。ハイジとペーターがいました。



「ハイジ・アルプヒュッテ」は昨年建てられたばかり。元のハイジの夏の家「ハイジ・ヒュッテ」はこの上の山「ハイジ・アルプ」の中腹にあるのですが、それが近年個人所有化して家の中の見学も出来なくなっていました。世界中のハイジファンのために全く同じ山小屋を作ったという訳です。この2階部分がハイジの部屋です。



この看板はハイジhofというレストランの駐車場に設置されていますが、お客様が帰るときに見える面です。一番上、マイエンフェルトはドイツ語圏ですから、スイス自国の人々に向けた言葉。

次の英語は世界共通語として世界中の人々に向けた言葉。最後になんと日本語が続きます。日本人はこの地の人々にとって特別です。実はアニメ版「アルプスの少女ハイジ」が世界中で放送されていた頃から、このマイエンフェルトを訪問する外国人の中では日本人が一番多かったからなんです。日本人のパワーは凄い！

【 チューリッヒ 】

(1) 市内レストランにて夕食

チューリッヒ 2 日目のスイス料理は、この街チューリッヒのご当地メニュー「ゲシュネッツェルテス」を食べます。正式には「チューリッヒの」という言葉をかぶせた「ツーリッヒャー・ゲシュネッツェルテス」と呼ばれます。



(イメージです。)

薄切り牛肉を生クリーム、白ワインで煮込んだものです。左側の付け合わせはレシュティというポテトのパンケーキです。イタリア系のレストランではパスタが付け合わせられることもありますが、本旅行ではオーソドックスにレシュティを食べます。デザートはレモン・ジェラートです。



3 日目

インターラーケン→ユングフラウヨッホ

【 インターラーケン 】

インターラーケンはスイスの首都であるベルンの南に広がる高地ベルナーオーバーラントの中心地です。トゥーン湖とブリエンツ湖の間にあるのでインターラーケンと呼ばれます。ラーケンは英語のレイクなんですね。大津の姉妹都市になっています。

ユングフラウ他の山々への玄関口として全世界の観光客やスキーマー・スノーボーダーが集まります。ホテルやレストラン、様々なお店があり賑わいます。

また、ベルナーオーバーラントには沢山の展望台がありスイスの山々の眺望が楽しめます。今日はその中からハーダークーム展望台とユングフラウヨッホのスフィンクス展望台に向かいます。

(1) ハーダークーム展望台



今日のホテル、「メトロポール・ホテル」にはユングフラウがよく見えるお部屋をご用意してありますが、アイガーは見えません。そこでインターラーケンからアイガー側と反対方向のハーダークーム展望台に向かってアイガーの姿を見ようともくろんでいます。ユングフラウ3山のうち、日本人と一番ご縁が深いのはアイガーなんです。アイガー最難関である北壁の日本人初登頂は1965年頂上直下の「白い蜘蛛」(地名:難所中の難所)で2名パーティーのうち一人が受傷して救援を一刻も早く呼ぶためには頂上を通過しなければならないという悪条件下で達成されました。また、初登頂と同じように重要視される直登ルートは1969年、日本人によってアイガーに刻まれました。世界の登山家達は尊敬を込めてこのルートを「ジャパン・ダイレクト」と呼びます。この時パーティー6名の中には医師の今井通子さんが参加していて女性がアイガーを直登したというこ

とで更に話題となりました。最近ではイモトさんも登りましたが途中駅からの登山でしたね。
ハーダークルムにはこの赤いケーブルカーで上っていきます。



ハーダークルム展望台です。美しい山と湖、そしてインターラーケンの町並みも見える展望レストランがあります。



こちらから見るとぞっとしますが、立っている人は案外平気なテラスもあります。テラスの先端にいる牛は記念撮影用の作り物ですからご心配なく。

(2) 展望レストランにて昼食 アルペンマカロニ



(イメージです。)

去年増築されたハーダークルムの展望レストランでアルペンマカロニを食べます。晴れていれば絶景を楽しみながらの昼食です。リンゴソースで食べるマカロニは思いの外いけます。



スイスではサラダは貴重品だそうで、スイス人は出されるとバリバリ言わせて食べるとか。デザートはパンナコッタの予定です。

(3) ユングフラウ鉄道



ユングフラウ鉄道は1895年(明治28年)に工事が始まりました。スイスアルプスに世界中の観光客を呼ぶために国の力をつぎ込んだ一大事業は当時「スイス人しか考えつかない。」と言われた難工事でした。

ユングフラウの堅い岩盤と永久凍土を人手でくり抜く計画です。日本では明治中期の国の経済基盤を作ろうとしている時代に、スイスではほとんどがトンネルのラックレール式電車を実現しようとしていたのです。蒸気機関車では煤煙のため、トンネル内の走行はできませんでした。反面豊富な水力発電が電力を供給できます。弱点を逆手に取り、強みを生かす。それもこれも観光に力を入れなければ他に外貨獲得の道が無いという危機感からの選択でした。

3年後一部開業しましたが、その後の予算が底を突きました。スイスは山ばかりの田舎で当時の日本と同様お金がなかったのです。ユングフラウヨッホ駅まで全線開通したのは、なんと1912年(大正元年)のことです。この可愛い赤い電車には国の前途を賭けた、スイス人の決意と夢の歴史が秘められています。



ユングフラウ鉄道では3つの路線を使って3種類の電車に乗ります。上に登るに従ってだんだん電車が小さくなっていきます。これは一番低層を走る電車です。



2番目の電車。小さくても馬鹿に出来ません。なぜなら…



こんな山間を平気で抜けていくからです。左右の崖に見える縦の白い線は滝です。何本もの滝

が中央の川に流れ込んでいきます。



今通った町が、もうあんなに下に見えます。それでも人家は絶えることなく続いています。このあたりの人たちはどうやって生活しているのでしょうか。ユングフラウ鉄道が無ければ食料も調達は難しいような気がします。

【 ユングフラウヨッホ 】

(1)ユングフラウヨッホ駅



トンネル内走行用の赤い電車に乗ってユングフラウヨッホ駅に到着しました。線路の真ん中に歯車を平らにしたようなラックレールが見えます。鉄道ファンには堪りませんね。それにしても日本のようにプラットホームが無いのでご注意下さい。また、高山病は軽い重いの個人差はありますが全ての人に影響があります。私の場合はユングフラウヨッホ駅到着前から疲労感・脱力感を感じました。身体がうまく動かないという感覚です。静かにしている、水のペットボトルを買っておいて水分をこまめに摂取するのが対処法です。前日に大量にお酒を飲まない、よく寝ておくのも肝心です。

駅構内にはお土産店、レストランや郵便ポストのほか「氷の殿堂」などの施設があります。



「氷の殿堂」です。氷をくりぬいてスイスにちなんだ展示をしています。床も氷なのがびっくり。滑り難くするように氷の温度をコントロールしているそうですが、軽登山靴を履いていた私も滑りました。手すりから手を離さないようにご注意下さい。

さあ、エレベーターに乗って標高3,571m、スフィンクス展望台に上ります。

(2)スフィンクス展望台



全面ガラス張り天文台付きの展望台は「スフィンクス・テラス」というのが正式名称。360度の大大パノラマが展開されます。中は20度前後ですが外に出ると急激に冷え込みます。

これは絶景です。世界中の人が見たいと思うそうですが、それが解ります。右側のひとときわ大きい山がユングフラウです。

(3)《世界遺産》アレッチ氷河・アイスパレス



アレッチ氷河はスフィンクス展望台の南側の足下が出発点、全長22Kmありヨーロッパ最大です。厚さ900mの氷が1年間におよそ180m流れます。

☆★3, 500mまで登るのがちょっと無理だとお考えの場合☆☆

別班でインターラーケンの町をご案内します。現地でお申し出下さい。



前ページ写真の画面中央に横長楕円の公園が見えますが、その左上に見える高い建物が「メトロポール・ホテル」です。



インターラーケンの市街は、世界中から観光客を集める華やかなアルペン・リゾートです。カフェやレストランがたくさんあり、ショッピングにも事欠きません。現地ランド・オペレーターの手により見所をご案内します。

現地ランド・オペレーターの話が出ました。本旅行の現地ランド・オペレーターは「クオニイ・グローバル・トラベル・サービス」社です。日本では「クオニイ GTS」と呼ばれるヨーロッパの大手ランド・オペレーターで親会社は日本の JTB です。



【 インターラーケン 】

(1)ホテル チェックイン 「メトロポール スイス クオリティ インターラーケン ホテル」



18階建てのメトロポール・ホテルは、インターラーケンで一番背が高いビルです。晴れていればユングフラウがよく見えます。せっかくですからお泊まりになるお部屋全てでユングフラウが眺められるよう「ユングフラウ・ビュー・ルーム」を確保しました。



温室構造になっているロビーです。



スキーやスノーボード客も多いためウェルネス設備(健康関連設備)も充実しています。その一つのサウナ、入ってみたいですね。

(2)夕食 市内レストランにて夕食 スイス料理 3種の「フォンデュ」



(イメージです。)

3日目のスイス料理は「フォンデュ」です。フォンデュについては当初オイル・フォンデュの予定で計画しました。サイコロ状の牛肉を油で火を通す、フォンデュの中では一番贅沢とのことで、予告編でもお知らせしていました。ところが食べてみるとサンフランシスコのビフテキと同じで肉に味が絡みません。レストランと交渉の末「チーズ・フォンデュ」→「フォンデュ・シノワーズ」→「チョコレート・フォンデュ」という構成にしてもらう事になりました。マネージャーさん曰く「スイス人にとってフォンデュは人寄せの時の料理です。あなたのお望みは日本で言ったら盆と正月と一緒に来たような、親戚中がみんな集まるような贅沢さになります。『チョコレート・フォンデュ』は誕生日のお祝いみたいなデザート。スイスではやりませんが盆と正月と誕生日のお祝いを一緒にやるつもりなんですネ?」「ぜひ、お願いします!」

「うーん。いいでしょう。日本人のお客さんは大事にしないとね。」といったやりとりが交わされました。



「フォンデュ・シノワーズ」は薄切りの肉を、濃いコンソメスープの中でしゃぶしゃぶのようにして食べます。最近日本人旅行者にも知られるようになりました。コンソメの味がしっかり付いて美味しいです。



「チョコレート・フォンデュ」(写真は3人前)です。チョコレートの中で定番のミルクチョコレートは、製造法が難しく、スイスで初めて作られました。そんな本場物を使った女性に嬉しいチョコ・フォンデュは、きっと気に入って頂けると思います。

4日目

インターラーケン→ベルン

【 インターラーケン 】

(1)市内にてフリータイム



(インターラーケンオスト駅)



(インターラーケンのカジノ)



そろそろ、旅行の疲れもたまる頃。お土産ショッピングも心配です。フリータイムのご自由な時間をご利用下さい。周りは世界のアルペン・リゾートです。様々な国の様々な人々。旅行の目的も様々。街の風景に溶け込んで素敵なひとときをお過ごし下さい。

【 ベルン 】

スイスの首都ベルンに向かいます。国際都市でモダンなジュネーブや経済産業都市のチューリッヒとは違い、これぞスイスの核とも言える古都。中世貴族政治の名残豊かな街です。ベルンでは世界遺産の旧市街を中心に観光します。



バラ公園から眺めたベルンの中心部である「旧市街」です。右上の木々の中に小さく橋桁が見えますが、これがコルンハウス橋で、この橋を右に300m程行ったところに今夜の宿「ホテル アレグロ ベルン」があります。

(1)昼食 市内レストランにて昼食 日本食レストラン「ジャピーゴ」

ベルンではまずお昼ご飯を食べます。



この日は中華料理の予定だったのですがそろそろ日本食が食べたいところです。スイスの日本食は都市部に集中しているのでベルンが最後のチャンスになります。

日本人の作るちゃんとした日本食という条件で現地日本人ガイドさんにもここなら大丈夫とお墨付きをもらって漬け丼・味噌汁付きにしました。日本人のウエイtrsさんもあります。

(2)《世界遺産》ベルン旧市街 大聖堂・時計塔・アインシュタインの家

＊大聖堂



1421年に着工して1893年(明治26年)に完成しました。工期は472年、約500年掛けて完成したこの高い尖塔は100.6mあってスイス国内で一番高い塔です。階段は344段ですから登ったら筋肉痛必至です。

＊時計塔

1218年には動き出しました。「ツィット・グロッケン」と呼ばれます。日本では鎌倉時代です。



この下の文字盤の右に見える出窓のような部分が名高い「仕掛け時計」です。仕掛け時計は毎時56分から動きだしますから、その時間には時計塔の周りには世界各国の旅行者達による人だかりが出来ます。みんなカメラを持って、今か今かと笑顔で待ち受けているので、そちらを見ていた方が楽しいかもしれません。

*アインシュタインの家



入り口左上に赤い文字で「アインシュタイン・ハウス」と書かれているのが目印です。

1879年（明治12年）にドイツに生まれたアインシュタインがスイスにきたのは、彼が通った大学がチューリッヒ工科大学だったからです。その後24歳で結婚してベルンに移り住みました。ベルンの特許庁に務めています。3年しか住みませんでした。1905年（明治38年）に、あのあまりに有名な「特殊相対性理論」がこの部屋から世界に向けて羽ばたきました。



(3)ホテル チェックイン 「ホテル アレグロ ベルン」



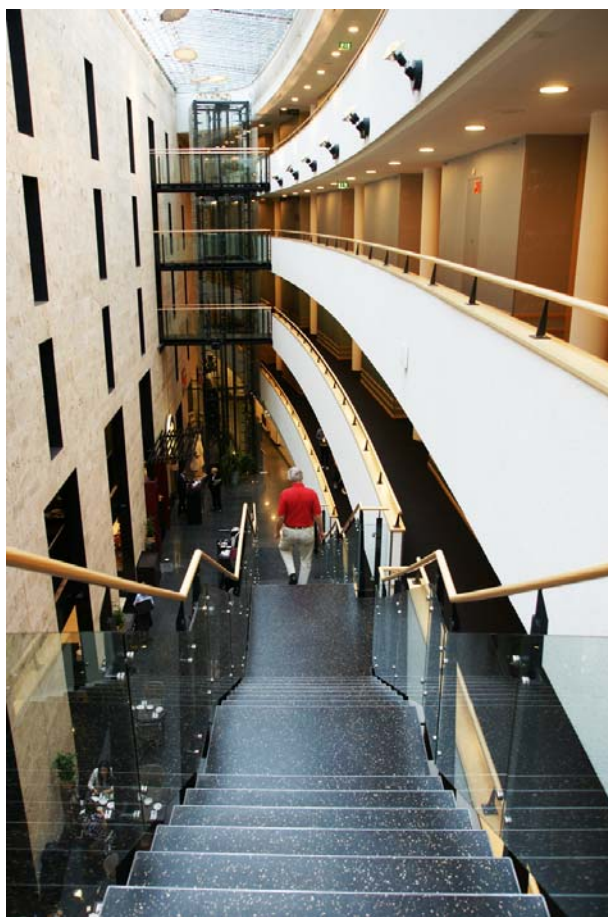
「ホテル アレグロ ベルン」は旧市街からコルンハウス橋を渡ってほんの300m程の所にある複合施設に入っています。写真に見える文字「クアザール」はその複合施設の名称です。旧市街まで路面電車で一駅、歩いてすぐです。



客室です。このホテルは全ておしゃれな雰囲気なんですが、客室もこの雰囲気です。



ホテルの中庭と旧市街方向の景観。いかにコンパクトな首都なのかが分かります。美しさを残したかったのでしょう。



客室からロビーやレストランに降る通し階段です。吹き抜けになっていて空間が広く感じます。前方は全面ガラス張りのエレベーター。

(4)夕食 市内レストランにてフェアウェルパーティー



(イメージです。)

「ベルナー・プラッテ」の予定でしたが、もう少し単価を上げて子牛のステーキを中心にしたディナーにします。写真の付け合わせのリゾットは、パスタにしました。スイスではお米は炊かずに煮る調理法ですから日本人にはちょっと違和感があるためです。



【チューリッヒ】 13時ちょうど発
ホテルからチューリッヒ空港を目指します。



チューリッヒ発13時ちょうどのスイス航空160便で帰ってきます。飛行時間は往路より35分短い11時間50分の予定です。

機内食が2食提供されます。

【 成田空港 】 7時50分着
成田空港に着くと翌日の朝7時50分になっています。

お疲れ様でした。ご自宅までお気を付けてお帰り下さい。

豆知識 1. 《チップについて》

観光客が通常出入りするホテルやレストランは、日本同様に料金の中にサービス料が含まれていて基本的にチップは要りません。但し特別にこちらの要望を聞いてもらった時、特に良いサービスを受けた

時、ホテル・タクシーなどで荷物を運んでもらった時には2〜3 スイスフランを払うのが良いと思われます。

豆知識 2.《商用電源について》

スイスの一般商用電源の電圧は230V〜240V、コンセントは2つの丸穴の「Cタイプ」です。日本製のカメラ用バッテリー充電器は240Vまで耐える物が多いのですが、日本国内専用充電器（タブレット端末やスマートフォン用等）や日本から持ち込んだ一般の電気器具は変圧器を使って電圧を下げないと使えません。

豆知識 3.《歯ブラシについて》

感染症を恐れて海外のホテルは歯ブラシを用意しないのが普通です。お忘れ無くお持ち下さい。万一忘れても近くのスーパーマーケットで買えますからご心配は要りません。

豆知識 4.《現地気候について》

スイスは日本のようにハッキリした四季があります。10月は秋ですが寒い国ですから9月と10月が秋、つまり秋の後半です。最初に到着するチューリッヒ（標高408m）で10月平均の最高気温は13度、最低気温は6度ほど。日の出は7：44、日の入りは18：39です。3日目に山岳地帯であるユングフラウヨッホ駅からスフィンクス展望台に上りますが建物内は暖房で20度程度に暖めてあるものの屋外テラスに出れば零下です。ダウンジャケット、ダウンベスト、フリース等の防寒衣料が必要でしょう。

◆平成29年のスイス旅行、是非ご参加下さい！！

【実施日程】 第1班 10月11日(水)〜10月16日(月)

第2班 10月18日(水)〜10月23日(月)

【募集人員】 60名

【旅行代金】 488,000円（2名1室ご利用の場合の1名様分）

*上記料金には、燃油特別付加運賃・各国航空諸税を含みます。

但し、原油価格および為替レートに大幅な変動が生じた場合は、追加代金を申し受けます。

3名一室の設定はございません。

【1名様で1室をご利用の場合】追加料金70,000円(4泊分)がかかります。

【募集締切】 各出発日の42日前まで

【利用航空会社】 スイス インターナショナル エア ラインズ（2レターコード：LX）

【ビジネスクラス利用の場合】（追加手配・代金についてはお申し込み後の手続きとなります）

追加代金：約65万円〜70万円前後（先着順）

【エコノミークラス事前座席指定サービス追加代金】

12,000円（往復）

【旅券残存必要期間】 出国予定日より3ヶ月以上

*上記料金は出発まで期間があるため、変更になる場合があります。

〔 調査・調整 〕

東京シティ信用金庫 理事地域戦略統轄本部長
渡邊 正之



西鉄旅行株式会社 東京団体支店 グループリーダー
中原 史貴



(ハイジのおじいさん「アルムおんじ」の扮装をしています)



<http://www.shinkin.co.jp/to-city/>



(アイガーの麓 グリンデルワルド)

*copyright (c) 2017 Tokyo City Shinkin Bank